

現在および今後の防災と地域の関係性

廣木 颯太郎

■活動内容

①防災について、その仕組みや実情を理解する。
ヒアリングを通じて、平時、災害時、復旧時の活動を学びました。対象は、防災活動を統括する「行政（防災安全室）」、現場で活躍する「消防」、住民の代表である「自主防災会」とし、オンラインと現地で計4名の方にヒアリングを行ないました。主に、各組織の活動内容や連携、現在そして今後の課題について伺いました。
また、鋳物師地区において、防災倉庫などの対策を見学したほか、洪水が発生した際にどのように浸水が広がるのか、ハザードマップを参考に散策しました。

②アカタン砂防堰堤群を見学する。

町内にあるアカタン砂防堰堤群は、南越前町の防災の歴史を学ぶ上で欠かせない場所であると考え、堰堤群の保存活動にご尽力されている伊藤様に現地を案内していただきました。特徴的な石の積み方や自然の岩盤（地形）を活かした水通しなど、100年以上前に作られた堰堤が、今もなお機能し続けている工夫を垣間見ることができました。

■町との関わり

来町期間：2020年11月23日～29日

来訪場所：町役場、南消防署、鋳物師地区、アカタン砂防堰堤群

ヒアリング対象者：市村様（防災安全室）、細川様・前澤様（消防署）、片山様（自主防災会）

その他地域で関わった方：伊藤様（アカタン砂防堰堤群）

前半は参加者の菊川さんと一緒に行動し、防災以外にも杣山に登ったり、右近家の館を訪れたりしました。

■情報発信

情報発信は、ほとんどできませんでした。

■成果（変化）

①活動前と活動後の自分自身の変化

「防災」というものを初めて学んだため、短い期間ながらも自分にとってとても有意義でした。町内でも地区や世代によって意識に差があること、大規模災害時は他地域との連携を行うことなど、今まで何となく知っていたことも、今回の活動でより深く理解できたと思います。また、防災について考えるには、机上で議論したりハザードマップを読み込んだりするだけでなく、実際に現地を歩くことが非常に重要だと、鋳物師地区を散策した際に感じました。

②活動を今後どう活かすか

大学では、今春から災害をテーマに研究する予定です。今回の活動の経験を活かし、研究対象の地域の防災が抱える課題を、フィールドワークなど多角的に考えていきたいです。

反省点は、情報発信ができなかったことです。防災という、ネガティブな印象がある内容をどうやって伝え、そして興味を持ってもらうか、今後の課題の一つです。

■活動に関する写真等

アカタン砂防堰堤群の見学

- (右上) 堰堤群の説明看板
- (左下) 八号堰堤、幅はなんと112m!
- (右下) 今回訪れた中で一番上流の堰堤
計9つの堰堤で土石流を食い止める。



鋳物師地区の散策

- (右) 掲示板に貼ってあった「鋳物師ビジョン」地区の目標の一つに、防災が含まれている。自分の地元にはないもので、関心を持った。
- (下) 地区周辺のハザードマップ。赤色（5m以上浸水）や土砂災害のリスクの高いエリアが広がっていることが分かる。※町のHPより引用。

